

北陸 人の素晴らしさ感じる

当地に赴任してから 2 年がたちました。「The エコノミー」に寄稿させていただくのも今回で 9 回目になります。そこで今回は、これまでの 2 年間の寄稿を振り返ってみたいと思います。

赴任してからの 2 年間は、総じて景気の良い時期だったと思います。そして、景気に関連するコラムも多く書きました。当地では、北陸新幹線の開業効果が継続しており、経済を下支えしています。これに関連して、インバウンド（海外からの観光客）が増加している背景や、今後の課題と対応策などについて書きました。また、景気が拡大する中で人手不足問題も深刻化しています。このため、北陸地区で人手不足が深刻化している背景や、働き方改革を通じた生産性の向上の必要性についても書きました。

一方、トランプ政権の誕生で、世界経済の不確実性が高まったのもこの時期でした。米中という 2 大経済大国が貿易戦争に突入して、世界経済に良いことは何一つありません。北陸経済にとっても懸念材料です。冷静かつ建設的な議論が関係国でなされることを切に願う次第です。

北陸の自然や文化に対する愛着も、自然とコラムの中に入り込んできました。多雨の地域であることが、豊かな自然と相まって、北陸の経済や食文化などに様々な恵みをもたらしていることについて書いたのはその典型です。また、フランスに長く住んでいた経験から、北陸の素晴らしい自然と食材、そして文化をいかして、欧州で人気のあるオーベルジュ（都市部から離れた場所にある宿泊施設付き高級レストラン）を増やしてはどうか、といった提案もさせていただきました。また、フランスの「ワイン外交」になぞらえて、北陸の「かに外交」などという造語も作らせていただきました（笑）。

このように書きつづりながら、北陸がいかに素晴らしい場所であるか、改めてかみしめています。心を洗われるような自然や町の景観、深みのある伝統文化、日本でもトップクラスの食文化など、本当に素晴らしいと思います。特に北陸に 2 年住んで感じるのが、人の素晴らしさです。公私を通じて本当に多くの素晴らしい方と出会いましたし、また多くの方々に支えられました。北陸の本当の底力は、その人間力にあるのではないかと思います。

私はラグーマンで、前回のコラムでもラグビーについて書きました。ラグビーでは、試合終了のことを「ゲームオーバー」とは言わず、「ノーサイド」と言います。ラグビーにおける本当の交流は、試合が終わってから始まります。

私も転勤族ですので、いずれ新しい赴任地に向かうことになりますが、北陸で出会った方々との縁は、ずっと大切にしていきたいと考えています。